

中間評価結果（平成17年度採択研究課題）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	A S R劣化構造物安全性能評価手法の開発	京都大学大学院 教授 宮川 豊章	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- 劣化メカニズムの解明や構造安全性評価の方法論などに課題はあるが、現段階での研究の見通し、進捗状況は概ね良好であり、指摘事項に留意し、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

- ASRでの鉄筋破断のメカニズム解明、初期値がない状況での非破壊検査（UT）の評価や深さ方向の劣化の評価方法などについて、十分な検討が必要と考えられる。
- 非破壊検査システムに工夫が必要と思われる。
- 超音波による非破壊検査について、より計測措置や環境条件に左右されにくい方法（例えば、海洋探査などにおける Tomography 概念の適用可能性）を検討していただきたい。超音波の減衰メカニズムの定量モデル化について検討が必要と思われる。
- 昨今の問題を考えると、非破壊検査に係る評価手法について、特に重点的に研究することが望まれる。
- 内部劣化状況と計測結果を合わせた成果は、今後の研究のために貴重な情報と考えられるため、データを公開することが望ましい。
- 鉄筋とコンクリートの一体性評価については、限られた供試体の劣化状況に依存する部分が多く、確実に一定の効果が得られるよう、慎重な研究進捗管理が望まれる。
- 評価の一般性を確保することに十分留意していただきたい。

評価

- A：当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目標達成が可能と評価される。
- B：当初目標を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意し、一層の努力が必要と判断される。
- C：このままでは当初目標を達成することは難しいと思われるので、評価者からの指摘事項に沿って、当初計画の適切な変更が必要と判断される。
- D：現在までの進捗状況に鑑み、今後の努力を待っても当初計画の達成は困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。